

科目名 クラス 講義区分	曜時	科目名 クラス 講義区分	曜時
日本語文法論 <秋集>	火2・金1	日本語学概論 <春集>	火2・金1
【教員氏名】 有川 康二			
【単位数】 4 単位			
【講義・演習概要】 消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器（食物（情報）を分解、吸収する消化システム）を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システム（情報を守る器官）を調べます。この授業では、ヒト自然言語の情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器（情報を処理するシステム）を調べます。といっても、脳を解剖したり（簡単にどこでもできません）、1台何億円もするMRIを使って脳を調べるわけではありません（お金がありません）。実際、解剖やCTでは言語システムで働く文法の詳しい法則や仕組みは全然分かりません。私達各々が自分の母語（韓国語、中国語、日本語等（五十音順））を使って、つまり、各々が自分の脳の働きを徹底的に観察して、実験（思考実験）を行い、言語現象の論理的な説明をしていきます。母なる自然の創造したヒト脳（1300gのタンパク質の塊）という情報処理システムで働く法則とメカニズムの説明を行います。紙と鉛筆があればできます。			
【学習目標】 人間の脳の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。例えば、「太郎は毎日料理と掃除をする」とか「John cooks and cleans everyday」はOK、「太郎は毎日料理をすると掃除をする」は変。「John knows Mary」はOK、「太郎は花子を知る」は変。「象は鼻が長い」の主語は？「花子が太郎が好きなこと」では主語は二個？「あ、雨だ！」では主語はない？「昨日は寒かった」はOK、「It colded yesterday」は変。「もうご飯食べた？」と聞かれて、「うん、食べた」はOK、「いや、まだ食べなかつた」は変。「猫は金魚を食べた」「猫が金魚を食べた」「猫が金魚は食べた」「金魚は猫が食べた」「金魚が猫に食べられた」「金魚を猫に食べられた」はどう違う？「は」「が」「を」の意味はあるのか、ないのか？「猫を金魚を食べた」は変だが、このような変な例は、なぜ、変なのか？頭の中ではどんな言語情報の計算が行われているのか？このような問題を考えながら、母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していくます。			
【講義・演習計画】 第1回：はじめに ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのか。ヒト脳の文に対する容認性反応（OKか変か）を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使って行う実験だ。 第2回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る（1） 第3回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る（2） 第4回：品詞分類テスト（言語情報検出のリトマス試験紙）（1） 第5回：品詞分類テスト（2） 第6回：品詞分類テスト（3） 第7回：主語とは何か？（「～は」「～が」が主語という定義は間違い）（1） 第8回：主語とは何か？（2） 第9回：主語とは何か？（3） 第10回：活用とは何か？（国語で習った活用表は矛盾だらけ）（1） 第11回：活用とは何か？（2） 第12回：活用とは何か？（3） 第13回：二種類の「た」（「もう食べた？」「いや、まだ食べなかつた。」が変なわけ）（1） 第14回：二種類の「た」（2） 第15回：二種類の「た」（3） 第16回：格助詞の「格」とは何か？（言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム）（1） 第17回：「格」とは何か？（2） 第18回：「格」とは何か？（3） 第19回：「格」とは何か？（4） 第20回：言語システムの自己組織化（「食べれる」のような「ら」抜き言葉はちゃんと法則に従っているし、計算／伝達効率もよい。むしろ、「ら」入りの「食べられる」のほうが法則を無視しており、計算／伝達効率も悪い。）（1） 第21回：言語システムの自己組織化（2） 第22回：言語システムの自己組織化（3） 第23回：言語システムの自己組織化（4） 第24回：言語情報計算における経済性原理（言語システムで物理法則が働いている）（1） 第25回：言語情報計算における経済性原理（2） 第26回：言語情報計算における経済性原理（3） 第27回：言語情報計算における経済性原理（4） 第28回：予備 第29回：予備 第30回：復習、及び、試験			
【成績評価の方法】 試験評価：100% 筆記試験、出席点、平常点。尚、出席点は、単に椅子に座っている（または、隣人と無駄話をしている、または、寝ている）ではなく、質問コメント用紙に積極的に質問やコメントをして、建設的に授業に参加し貢献したなども含めた総合的な平常点として考慮する。			
【テキスト】 有川康二：『新・脳科学基礎論としての生物言語学（応用編）』（三恵社）			
【参考文献】 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版 宮本陽一（2009）『生成文法の展開一「移動現象」を通して』大阪大学出版会			
【準備学習の指示】 前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞（ちんぶんかんぶん）になります。予習、復習をしてください。			
【教員氏名】 有川 康二			
【単位数】 4 単位			
【講義・演習概要】 「は」に濁点がつくと「ば」。でも、「な」に濁点をつけた「な」は変。なぜ？「大」[oo]と「型」[kata]で「おおがた」。なのに「大」[oo]と「風」[kaze]で「おおがぜ」は変。なぜ？「やせたロバの飼い主」と「やせたロバと飼い主」では、やせているのは誰？その違いはどこから？「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。なぜ？頭の中では何がどうなってる？「が」と「を」について4ヶ月間徹底的に考えます。「が」と「を」は母なる自然がつくったウイルスです。言語システムは母なる自然がつくったウイルスチェックシステムです。（授業を受けると、何を言っているのか分かります。）こんなに「が」と「を」について一生懸命考えるのは、みなさんにとって人生で最初で最後の経験となります。日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使えます。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことです。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできません。（誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムは説明できません。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まります。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象となります。			
【学習目標】 日本語を三つの視点から概論します。（1）生物言語学の視点＝ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とはどのようなものか？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国语として学ぶ人々にとって、日本語の客觀的な説明、よりよい説明とはどのようなものか？（3）哲学的視点＝今この瞬間も時速10万8千km（弾丸速度の約19倍）で太陽のまわりを公転している地球の表面に重力でへりつけられて、自分は今ここで何をしているのか？約150億年前にできた宇宙の中で、46億年前にできた地球の上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をして、老いて、死んでいくのか？このようなことを日本語で考えている自分にとって、日本語とは何か？（こんなことは大学とお寺でしか言わないので（細かいことや最後のことは大学でだけ）、我満して落ち着いて考えてください。）			
【講義・演習計画】 第1回：インロダクション 「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（1） 第2回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（2）			
第3回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（3） 第4回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（4） 第5回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（5） 第6回：「よい説明」とは何か。（1） 第7回：「よい説明」とは何か。（2） 第8回：「よい説明」とは何か。（3） 第9回：「よい説明」とは何か。（4） 第10回：「よい説明」とは何か。（5） 第11回：言語の構造（1） 第12回：言語の構造（2） 第13回：言語の構造（3） 第14回：言語の構造（4） 第15回：言語の構造（5） 第16回：脳とコンピュータ（1） 第17回：脳とコンピュータ（2） 第18回：脳とコンピュータ（3） 第19回：脳とコンピュータ（4） 第20回：脳とコンピュータ（5） 第21回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（1） 第22回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（2） 第23回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（3） 第24回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（4） 第25回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（5） 第26回：予備 第27回：予備 第28回：予備 第29回：復習 第30回：復習、及び、試験			
【成績評価の方法】 試験評価：100% 筆記試験、出席点、平常点。尚、出席点は、単に椅子に座っている（または、隣人と無駄話をしている、または、寝ている）ではなく、質問コメント用紙に積極的に質問やコメントをして、建設的に授業に参加し貢献したなども含めた総合的な平常点として考慮する。			
【テキスト】 有川康二：『新・脳科学基礎論としての生物言語学（基礎編）』（三恵社）			
【参考文献】 酒井邦嘉（2002）『言語の脳科学－脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版			
【準備学習の指示】 前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞（ちんぶんかんぶん）になります。予習、復習をしてください。			